

日本の医学部における スポーツ医学教育の現状 ～全国大学医学部へのアンケート調査から～

Current status of sports medicine education in medical department of
the university in Japan～Results from questionnaire survey for
the faculty of medicine in the university～

大森 豪*¹, 片寄正樹*¹, 津田英一*¹
山口奈美*¹, 横山久代*¹, 藤谷博人*²

キー・ワード：Sports medicine education, Medical department of the university, On-line questionnaire survey
スポーツ医学教育, 大学医学部, 全国アンケート調査

【要旨】 本邦の大学医学部におけるスポーツ医学教育の現状把握と医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度の改訂内容がどの程度反映されているかを知る目的で, 2024年7～8月に全国82大学医学部にアンケート調査を行い64大学(78.1%)から回答を得た。その結果, 56大学(87.5%)でスポーツ医学の講義や実習が行われていた。スポーツ医学教育の実施組織は整形外科やリハビリテーション科など単一の臨床講座が可能な範囲で担っており, スポーツ医学専門の講座は11大学(11.7%)にとどまっていた。また, 医学教育モデル・コア・カリキュラムの令和4年度の改訂内容は僅か1大学で取り入れられているのみであった。

今回の調査結果から医学部におけるスポーツ医学教育の必要性に対する認識は高まっていると考えられるが, 日本のスポーツドクターと欧米のスポーツ総合医(Sports physician)の間には隔たりがある事が明らかとなった。したがって, 今後, 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂内容が取り入れられるとともに医学部におけるスポーツ医学教育が充実し, さらにスポーツ医学専門の講座が増えることが期待される。

はじめに

医学教育モデル・コア・カリキュラムは文部科学省が本邦の大学医学部における卒前医学教育において, 各大学が策定するカリキュラムで取り組むべき重要な「コア」の部分抽出し体系づけたもので, 平成28年に続いて令和4年度に改訂が行われた¹⁾。

スポーツ医学分野について, 平成28年度の改訂

では「社会・環境と健康」の学修目標に「スポーツ医学を説明できる」との1文が記載されていたのみであったが, 令和4年度の改訂では冒頭の「医学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方」の「3. 医学生に求めたいこと」に「医療全体を考えるにあたっては, --- (中略) ---スポーツ・運動や栄養・食育の重要性についても認識することが必要である。」とスポーツ医学教育の意義が記載され, さらに「第2章学修目標」や「第3章学修方略・評価」でスポーツ医学教育について詳細かつ具体的な内容が記載された。

日本臨床スポーツ医学会では, これらの改訂内容が各大学のカリキュラムに反映されるのは令和

*1 日本臨床スポーツ医学会教育研修委員会

*2 日本臨床スポーツ医学会広報委員会

Corresponding author: 大森 豪 (omori@nuhw.ac.jp)

6年度からであることから、令和6年度の各大学の医学部教育カリキュラムにおいて「スポーツ医学」がどの程度取り入れられているかについて調査を行った。

本稿では、日本臨床スポーツ医学会が行ったアンケート調査内容とその結果を紹介し、全国医学部におけるスポーツ医学教育の現状と課題について検討する。

対象および方法

全国大学医学部における「スポーツ医学教育の実態」に関するアンケート調査

①調査実施組織

日本臨床スポーツ医学会教育研修委員会

②調査期間

令和6年7月15日～9月30日

③調査対象施設

全国大学医学部（82大学）

④調査方法

Googleフォームによるweb調査を行った（表1）。

結果

調査を依頼した82大学中64大学（78.1%）から回答が得られその結果を解析した。

設問1 スポーツ医学教育の機会について（図1-1, 2, 3）

複数回答では64大学中56大学（87.5%）が講義、25大学（39.1%）が臨床実習を行っていた。そのうち講義のみの実施は33大学（51.6%）、講義と実習を両方実施しているのは23大学（35.9%）、臨床実習のみ実施していたのは2大学（3.1%）で講義が多数を占めていた。また、スポーツ医学教育を実施していない大学が7大学（10.9%）あり、そのうち6大学は今後もスポーツ医学教育を行う予定が無いと回答し、その理由として担当する講座や教員が無いことや現行のカリキュラム上スポーツ医学教育を取り入れる事が困難であることを挙げていた。

設問2 スポーツ医学に関連する講義について（図2-1, 2, 3）

スポーツ医学の講義を行っている学年は、3年次が31大学（48.4%）、4年次が25大学（39.1%）と多くを占めていたが、1年次に実施している大学も13大学（20.3%）あった。

スポーツ医学の講義を担当している部署は整形外科学講座が49大学（76.6%）と圧倒的に多く、リハビリテーション医学講座が10大学（15.6%）、スポーツ医学の専門講座が担当しているのは5大学（7.8%）のみであった。また、10大学では健康科学講座や人間科学学科、運動学講座、基盤教育部門など臨床医学系とは異なる名称の部署や講座が担当していた。

スポーツ医学の講義内容では、スポーツ障害・外傷の診断・治療（48大学：75.0%）、スポーツ障害・外傷のリハビリテーション（28大学：43.8%）、スポーツ医学総論（25大学：39.1%）、スポーツ現場における救護（14大学：21.9%）が多く、その他アンチ・ドーピングやメディカルチェック、内科疾患・生活習慣病への運動処方など多岐にわたっていた。

また、「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」の内容を取り入れている大学はスポーツ医学の講義を実施している56大学のうち僅か1大学（1.8%）のみであった。

設問3 スポーツ医学に関連する臨床実習について（図3-1, 2, 3）

スポーツ医学の臨床実習を行っている25大学では実施学年は、4年次16大学（64.0%）、5年次23大学（92.0%）、6年次19大学（76.0%）と6年間のうち複数年度の実施も含めて後半の3年間に集中していた。

臨床実習を担当している部署は、講義と同様に整形外科学講座が22大学（88.0%）と最多で、その他は整形外科との重複を含めてリハビリテーション医学講座が6大学（24.0%）、スポーツ医学講座が3大学（12.0%）となっていた。

実習内容では、外来実習が21大学（84.0%）、病棟実習が15大学（60.0%）、手術実習が18大学（72.0%）、リハビリテーション実習が10大学（40.0%）と多かった。さらに、選択肢以外の内容では、健康増進・予防医療に実習、動体視力体験、アウトドア実習が記載されていた。

また、スポーツ医学の臨床実習を実施している25大学で「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」の内容を取り入れている大学は1校も無かった。

設問4 スポーツ医学講座について（図4-1, 2, 3）

回答のあった64大学のうち「スポーツ医学講

表1 スポーツ医学教育の実態に関するアンケート

日本臨床スポーツ医学会

1. スポーツ医学教育の機会についてお尋ねします。

(1) 医学科の学生を対象としたスポーツ医学に関する教育の機会がありますか (複数回答可)。

- ない → (2) へ
- 講義を実施している → (4) ~ (7) へ
- 臨床実習を実施している → (8) ~ (11) へ

(2) スポーツ医学に関する教育の機会を設ける予定はありますか (複数回答可)。

- ない → (3) へ
- 講義を予定している → (4) ~ (7) へ
- 臨床実習を予定している → (8) ~ (11) へ

(3) スポーツ医学に関する教育の予定がない理由は何ですか (該当するもの全て)。

- 担当する講座がない
- 担当する教員がいない
- カリキュラムに余裕がない
- 必要性がない
- その他 (_____)

4. スポーツ医学講座に関してお尋ねします。」にお進みください。

2. スポーツ医学に関連する講義を実施/予定している大学にお尋ねします。

(4) 実施/予定している講義の対象学年は何年次ですか (該当するもの全て)。

- 1年次
- 2年次
- 3年次
- 4年次
- 5年次
- 6年次

(5) 講義を担当/予定している講座はどこですか (該当するもの全て)。

- スポーツ医学講座
- 整形外科学講座
- リハビリテーション医学講座
- 内科系講座 (講座名 _____)
- 外科系講座 (講座名 _____)
- その他 (講座名 _____)

(6) 実施/予定している講義内容は何ですか (該当するもの全て)。

- スポーツ医学総論
- スポーツ生理学
- スポーツバイオメカニクス
- トレーニング理論
- スポーツ障害・外傷の診断・治療
- スポーツ障害・外傷のリハビリテーション
- スポーツ現場における救護
- 内科疾患・生活習慣病への運動処方
- スポーツ栄養学
- パラスポーツ
- アンチ・ドーピング
- スポーツ心理学
- メディカルチェック
- 熱中症
- その他 (_____)

(7) 実施/予定している講義のうち「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」の公開後に新たに追加した内容がありますか。

- ある
内容について記載をお願いします _____
- 無い

臨床実習を実施/予定している場合は「3. スポーツ医学に関連する臨床実習を実施/予定している大学にお尋ねします。」へ、それ以外は「4. スポーツ医学講座に関してお尋ねします。」にお進みください。

表1 スポーツ医学教育の実態に関するアンケート（続き）

3. スポーツ医学に関連する臨床実習を実施/予定している大学にお尋ねします。

(8) 実施/予定している臨床実習の対象学年は何年次ですか（該当するもの全て）。

- 1年次
- 2年次
- 3年次
- 4年次
- 5年次
- 6年次

(9) 臨床実習を担当/予定している講座はどこですか（該当するもの全て）。

- スポーツ医学講座
- 整形外科講座
- リハビリテーション医学講座
- 内科系講座（講座名_____）
- 外科系講座（講座名_____）
- その他（講座名_____）

(10) 実施/予定している臨床実習の内容は何ですか（該当するもの全て）。

- 外来実習
- 病棟実習
- 手術実習
- リハビリテーション実習
- スポーツ現場での実習
- テーピング
- 救急処置
- 運動負荷試験
- その他（_____）

(11) 実施/予定している臨床実習のうち「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」の公開後に新たに追加した内容がありますか。

- ある
内容について記載をお願いします_____
- 無い

[4. スポーツ医学講座に関してお尋ねします.]にお進みください。

4. スポーツ医学講座に関してお尋ねします。

(12) スポーツ医学を専門とした講座は開設していますか。

- スポーツ医学講座を開設している → (13) ~ (14) へ
- 名称は異なるがスポーツ医学を専門とした講座を開設している
(講座名_____) → (13) ~ (14) へ
- 開設していない → アンケートは終了です。ご協力有難うございました。

(13) 医学科学生を対象としたスポーツ医学の教育を担当していますか。

- 担当していない → (14) へ
- 講義を担当している → アンケートは終了です。ご協力有難うございました。
- 臨床実習を担当している → アンケートは終了です。ご協力有難うございました。

(14) スポーツ医学の教育を担当していない理由は何ですか（該当するもの全て）。

- 他の講座が担当している
- 担当する教員がない
- カリキュラムに余裕がない
- 必要性がない
- その他（_____）

アンケートは全て終了です。ご協力有難うございました。

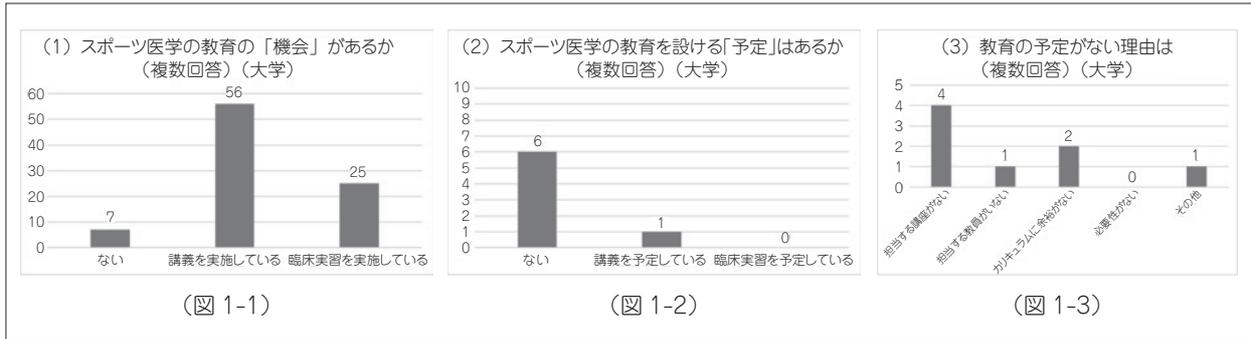


図1 「設問1. スポーツ医学教育の機会についてお尋ねします」の回答

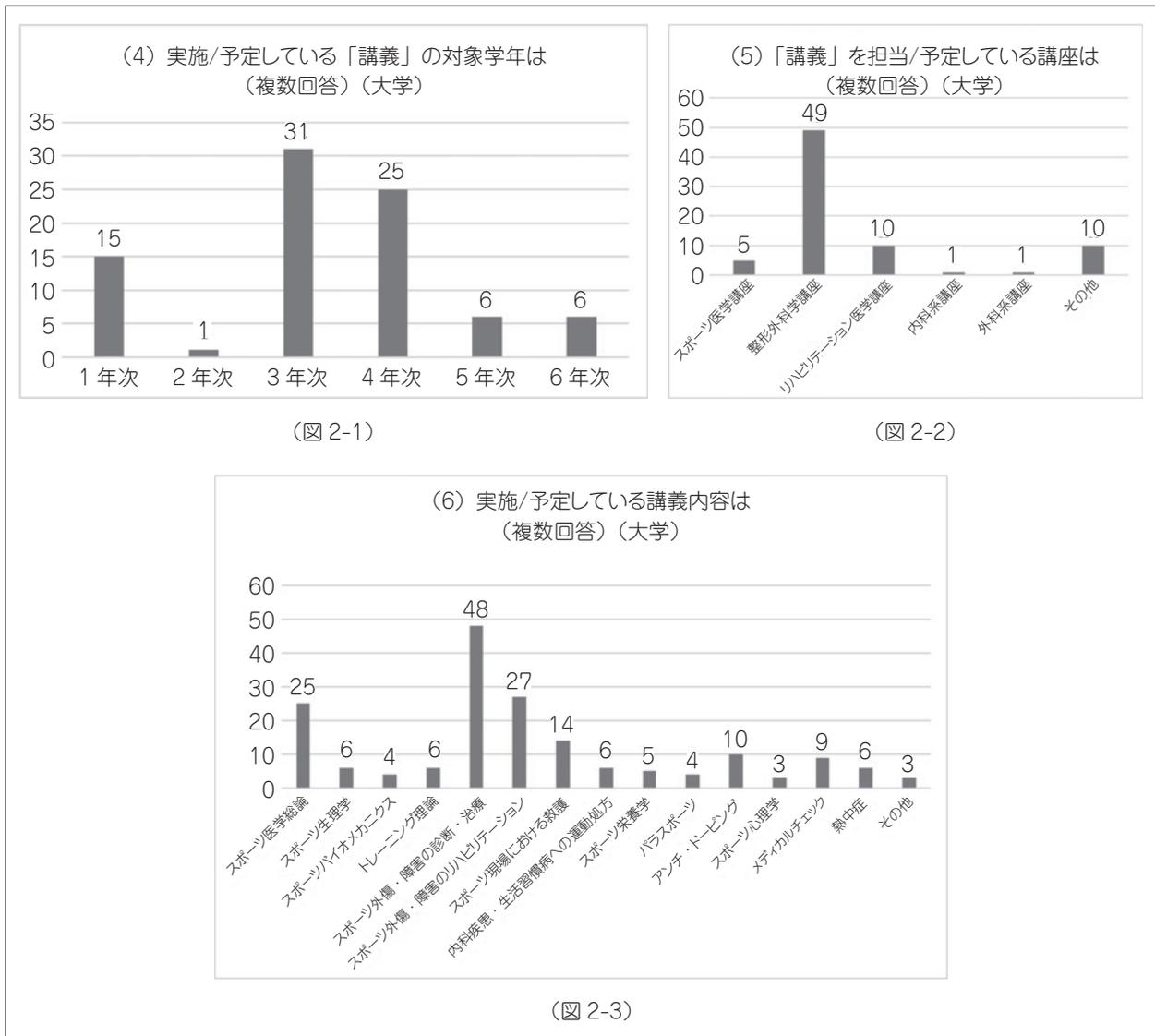


図2 「設問2. スポーツ医学に関連する講義を実施/予定している大学にお尋ねします」の回答

座」と言う名称で開設しているのは5大学(7.8%)であった。また、6大学(9.4%)では「運動学講座」,「スポーツ医学診療センター」,「スポーツ医学総合センター」,「運動器スポーツ医学講座」,「〇〇大学

スポーツ運動科学研究所」,「健康スポーツ科学講座」など名称は異なるがスポーツ医学を専門とした講座が開設され、講義や臨床実習の一部を担当していた。しかし、残り53大学(82.8%)では現

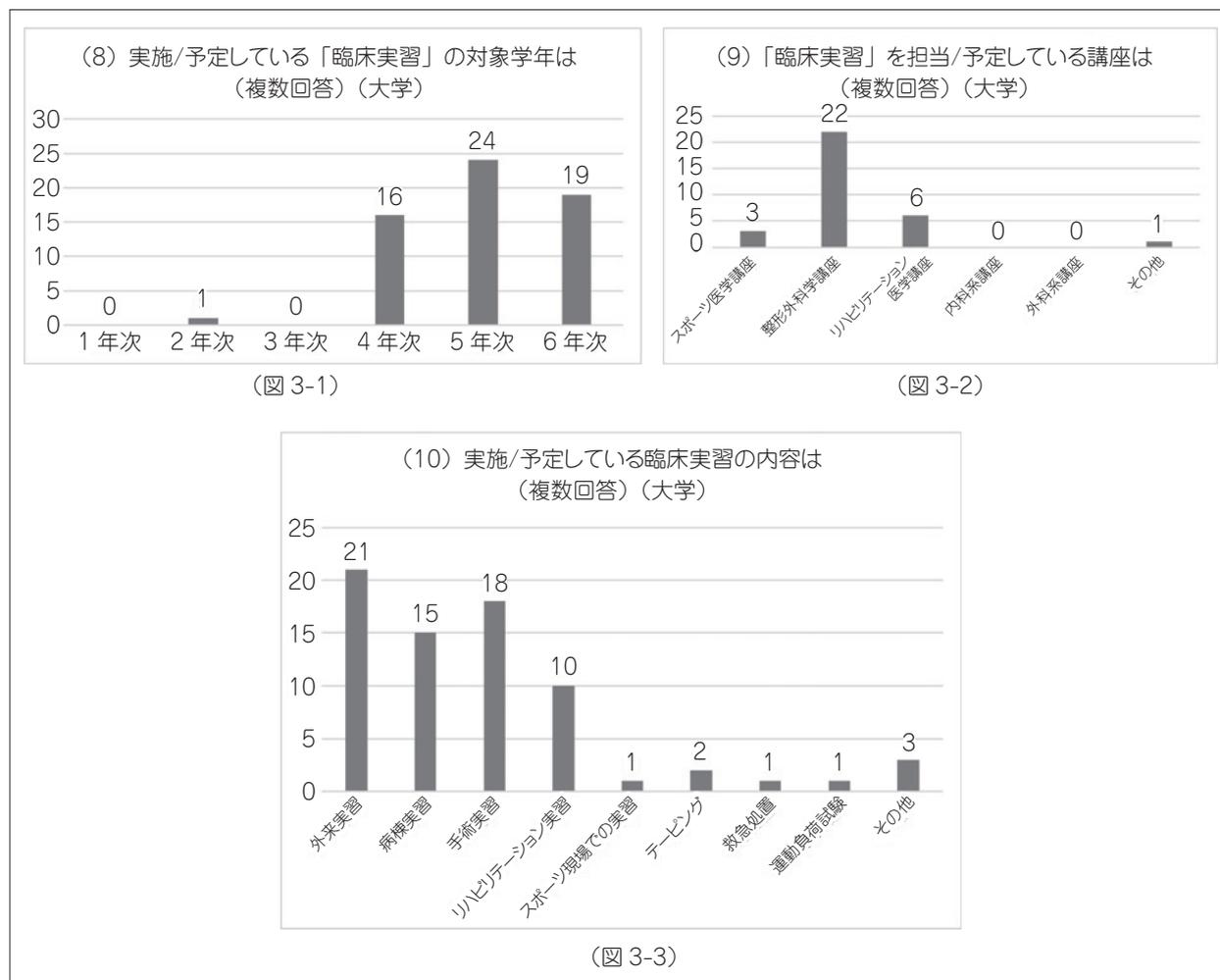


図3 「設問3. スポーツ医学に関連する臨床実習を実施/予定している大学にお尋ねします」の回答

状スポーツ医学に関する専門講座は開設されていなかった。

■ 考 察

医学部における卒前教育としてのスポーツ医学の現状調査は、筆者らが渉猟しえた範囲では河野が1993年に報告した内容が唯一であった²⁾。この調査では当時全国80の医科系大学の学長および学部長にアンケート調査を行い、26大学(33%)から回答を得ている。その結果、26大学中11大学(42.3%)でカリキュラムとしてスポーツ医学教育が行われており、その内容も多岐にわたっていた。また、19大学(73%)が卒前教育としてのスポーツ医学の必要性を指摘しているもの問題点として授業時間の余裕が無い事、専門教官の不足、施設や設備の不足、予算面の不足を挙げている。

この調査から約30年が経過して行われた今回の調査では、回答した64大学中56大学(87.5%)

が講義、25大学(39.1%)が臨床実習を行っており、実施割合の大幅な増加は医学教育におけるスポーツ医学の重要性が認識されてきた結果と考えられる。しかし、その一方でスポーツ医学の専門講座もしくはそれに準ずる内容を持つ講座は64大学中11大学(17%)にとどまっていた。スポーツ医学の専門講座を有する大学では、卒前教育としてスポーツ医学に関する幅広い教育が行われているが^{3,4)}、大多数の大学では整形外科を中心としてリハビリテーション医学講座など単一の臨床講座が可能な範囲内でスポーツ医学教育を行っており、多くの領域にまたがるスポーツ医学教育の望ましい姿には程遠い実態が今回の調査でも明らかとなった。この事は我が国のスポーツドクターはその多くが整形外科医を中心とした専門領域を持つ医師であり、是非はともかくとしてSports physician(スポーツ総合医)と言われる欧米のスポーツドクター制度とは異なる現状を生み出した原因の

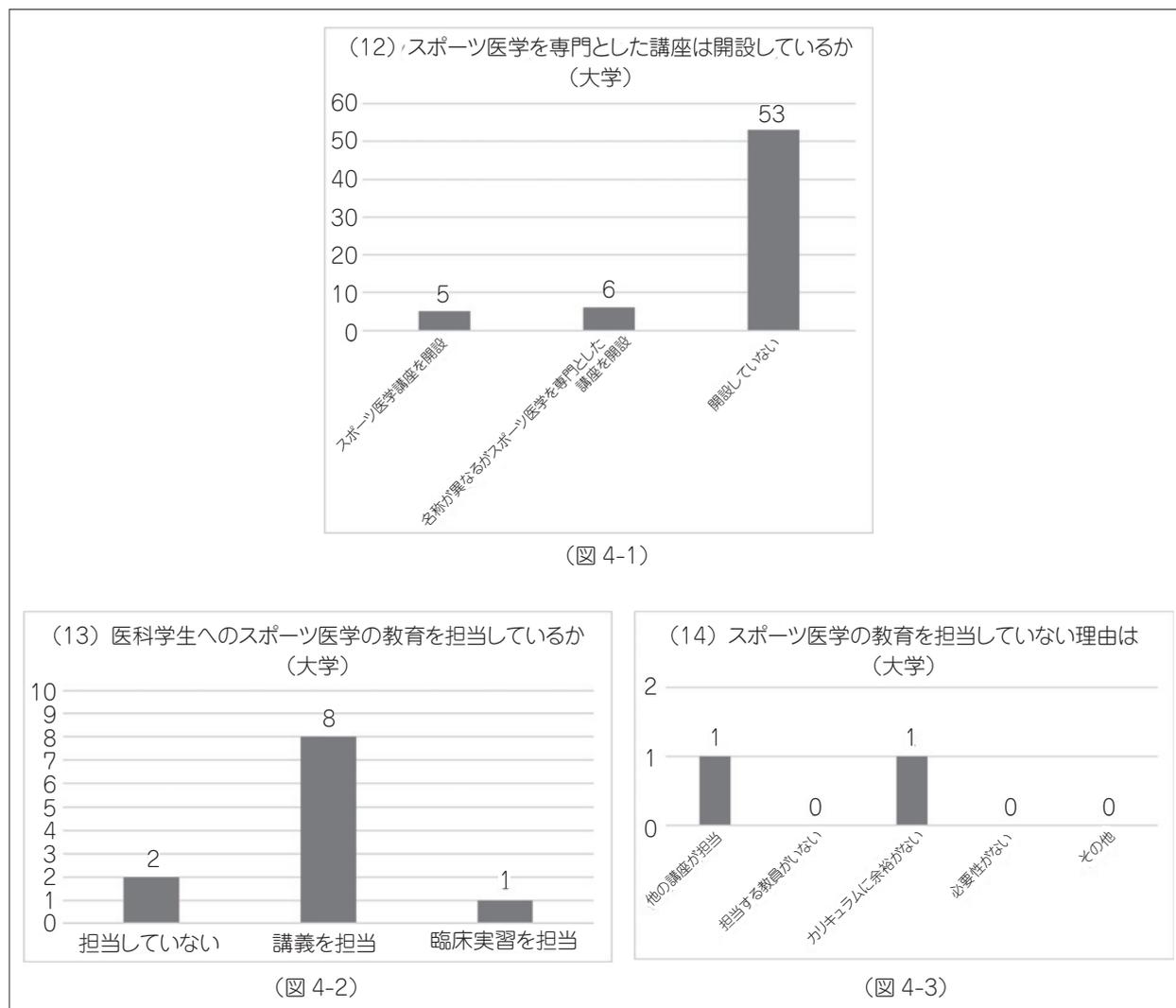


図 4 「設問 4. スポーツ医学講座に関してお尋ねします」の回答

1つとも考えられる。近年、我が国でも卒後教育としてのプライマリ・ケアスポーツ医学フェローシップを実施している施設が登場している。これらの施設では、総合診療を含めた専門研修修了後に1年間のフェローシップ期間を設け運動器診療研修や大会救護などの院外活動を研修する。このようなシステムの普及拡大によりスポーツ総合医の育成も含めた今後の発展が期待される^{5,6)}。

今回の調査では、冒頭に述べた医学教育モデル・コア・カリキュラムの令和4年度改訂内容を取り入れているのは講義を実施している大学1校のみであり、その理由として調査時期が尚早であったことが考えられる。したがって、日本臨床スポーツ医学会では今後適切な時期に再調査を行い、今回の改訂内容が各大学のスポーツ医学教育に反映されていく状況を見守る必要があると考え

られる。さらに、学術集会を含めた様々な活動を通して大学におけるスポーツ医学教育の重要性を発信し、将来的にはスポーツ医学の専門講座が誕生、増加して日本のスポーツ医学が発展していくことが期待される。

■ まとめ

全国大学医学部におけるスポーツ医学教育の現状についてアンケート調査を行った。その結果、スポーツ医学教育の実施割合は増加していたもののスポーツ医学専門講座の不足やカリキュラム改訂内容取り込みなどの課題も明らかとなり、今後の継続した評価検討が必要と考えられた。

謝 辞

本論文の調査に際し、回答いただいた全国大学医学部の

関係者の方々に感謝申し上げます。

利益相反

本論文に関連し、開示すべき利益相反はなし。

著者貢献

大森豪：Conceptualization（概念化），Projectadministration（プロジェクト管理），Formal analysis（正式な分析），Writingoriginal draft（草稿の執筆）

片寄正樹：Methodology（方法論），Investigation（調査），Formal analysis（正式な分析）

津田英一：Methodology（方法論），Investigation（調査），Formal analysis（正式な分析）

山口奈美：Methodology（方法論），Investigation（調査），Formal analysis（正式な分析）

横山久代：Investigation（調査），Formal analysis（正式な分析）

藤谷博人：Formal analysis（正式な分析）

版. 文部科学省. 入手先：https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html.

- 2) 河野一郎. 医科系大学学長・学部長の回答より. 臨床スポーツ医学. 1993; 10: 403-407.
- 3) 藤谷博人. 医学部におけるスポーツ医学教育の実際. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2025; 33: 233-235.
- 4) 小川宗宏, 田中康仁. スポーツ医学の社会貢献～スポーツ医学教育の視点から. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2025; 33: 236-239.
- 5) 濱井綾乃. 日本におけるプライマリ・ケアスポーツ医学の役割・教育研修と今後の展望. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2025; 33: 243-245.
- 6) 大森 豪. スポーツ医学のキャリア形成～スポーツドクターとして～. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2024; 32: 325-327.

文 献

- 1) 医学教育モデルコアカリキュラム令和4年度改訂

(受付：2025年8月17日，受理：2025年11月2日)

Current status of sports medicine education in medical department of the university in Japan～Results from questionnaire survey for the faculty of medicine in the university～

Omori, G.^{*1}, Katayose, M.^{*1}, Tsuda, E.^{*1}
Yamaguchi, N.^{*1}, Yokoyama, H.^{*1}, Fujiya, H.^{*2}

^{*1} Educational Training Committee of the Japanese Society of Clinical Sports Medicine

^{*2} Public Relations Committee of the Japanese Society of Clinical Sports Medicine

Key words: Sports medicine education, Medical department of the university, On-line questionnaire survey

[Abstract] The purpose of this study was to assess the current situation of sports medicine education in the medical department of the university in Japan and evaluate the integration of the revised content of the Medical Education Model Core Curriculum for the 2022 academic year.

On-line questionnaire survey was conducted from July to August 2024 among 82 universities nationwide, yielding responses from 64 universities (78.1%). The results showed that 56 universities (87.5%) were conducting lectures or clinical practice on sports medicine. The sports medicine education was primarily carried out by single clinical departments such as orthopedic surgery or rehabilitation medicine. Additionally, the revised content of the Medical Education Model Core Curriculum for the 2022 academic year was included by only one university.

While the survey results suggest that the necessity of sports medicine education in medical department of the university is increasing, it has become clear that a significant disparity exists in the perceived importance between the sports doctor in Japan and sports physicians in Europe and the United States. Therefore, it is anticipated that the adoption of the revised Medical Education Model Core Curriculum will substantially enhance sports medicine education in Japanese universities.